

《諫早市の目指す姿》

【目的】 認知症への偏見がなくなり、認知症の人と支え合うことができる地域づくり

- 【目標】 ①本人・家族が悩みを抱え込むことなく相談ができる地域
②行方不明になっても安全に自宅に帰りつくことができる地域

《目指す姿の実現に向けて今後解決すべき要因》

【普及啓発】

○認知症の理解

- ・「自分は絶対に認知症にはならない」「認知症になったら何もわからない」「認知症になるのが怖い」「認知症になったから地域の役は無理」等認知症の偏見がある。

【本人・家族支援】

○認知症に対する家族の理解

- ・「近所の人に認知症と分かるのが恥ずかしい」「何を言ってもわからない」等、認知症の偏見がある。
- ・生活障害や行動心理症状に、適切な対応ができず疲弊することが多い。
- ・介護サービスの利用や、施設への入所について「介護を投げ出した」と後ろめたさを感じる人が多い。

○専門職の資質向上

- ・認知症への理解が不十分で、適切な対応につなげていないことがある。
- ・意思決定や金銭管理が出来ない等の理由で、「認知症がある人は在宅での生活が難しい」と判断されることがある。

○認知症になっても安心して参加できない地域

- ・認知症になると、困った人と捉えられることがあり地域活動に参加できなくなることがある。

○若年性認知症の人を支える体制

【本人発信支援】

○認知症本人の希望を伝える機会（若年性認知症含め）

乖離

《現在の取り組みの状況》

【普及啓発】

○市民の認知症への理解を深める

- ・認知症サポーター養成講座の実施
- ・広報いさはやへの記事掲載
- ・認知症4コマ漫画の作成、周知
- ・認知症に関するラジオ配信やYouTubeアップ
- ・ホームページに認知症ページ設計
- ・認知症専門相談での家族、介護事業者、地域住民教育
- ・認知症オレンジ手帳書き方講習会
- ・認知症講演会の開催
- ・世界アルツハイマー月間の取り組み（オレンジライトアップ、パネル展、街頭活動等）
- ・認知症オレンジ手帳作成と配付
- ・認知症ケアパス作成と配付
- ・いさはやオレンジガイドの作成と配付
- ・認知症対策推進会議委員との協議
- ・地域ケア会議で地域住民を入れた会議開催、オレンジミーティングの開催

【本人・家族支援】

○認知症を予防する

- ・介護予防教室やサロン、地域のサークルへの参加を促す
- ・地域活動に継続して参加できるよう、フォローする

○早期発見・早期診断・早期対応

- ・初期集中支援チームを医療機関に委託
- ・認知症専門相談実施
- ・認知症講演会にて相談ブースの設置
- ・認知症疾患医療センターとの情報共有
- ・認知症地域支援推進員による地域包括支援センター、ケアマネ、事業所からの相談対応
- ・対応力向上のための認知症多職種協働研修動画配信

○自宅に安全にかえることができる

- ・見守り安心グッズ（GPS、オレンジ見守りペンダント）の利用
- ・警察との協定（徘徊・免許返納）
- ・地域ケア会議の開催
- ・認知症SOS模擬訓練の実施

○関係者とのネットワーク構築

- ・認知症対策推進会議の実施
- ・キャラバンメイト連絡会の実施
- ・オレンジ連携シートの活用
- ・認知症多職種協働研修の実施（集合型）

○地域とのつながりの構築・維持

- ・認知症地域支援推進員の相談対応
- ・認知症カフェや認知症の人と家族の会へ繋げる
- ・地域包括支援センターを通じ、地域活動へ繋げる

【本人発信支援】

○認知症本人の気持ちを伝える支援

- ・諫早市の認知症の人の希望や気持ち1000の声の聞き取り
- ・諫早市認知症ケアパス（いさはやオレンジガイド）に本人の気持ちを掲載
- ・認知症講演会の内容について認知症本人の意見を反映
- ・認知症本人の認知症SOS模擬訓練への参加